令和7年度　大分県長期教育計画委員会　委員意見

令和7年8月28日開催分

【議事　大分県長期教育計画（「教育県大分」創造プラン2016）に基づく施策の達成状況等について】

NO	分類	意　見
1	不読	豊かな想像力や言葉を育むためにも本を読むことは重要だと思うので、新教育長計になり目標指標が変更となっても不読を改善する取組を引き続き進めてもらいたい。
2		乳幼児期からの読み聞かせは非常に重要だと思う。加えて、小学校に入ってからも読み聞かせは重要であり、別府市では、年3回全教室に保護者が入って読み聞かせをするという取組をしている。また、県では「推薦図書リスト兼読書記録帳」を配布しているが、推薦図書リストに掲載している図書を読めるよう市町村の図書館の充実といった環境整備も必要である。例えば1人1台端末となったので、推薦図書リストをデジタル化し、児童生徒の端末に入れ、デジタルで読んだ本を記録できるようにすると子ども達のやる気の向上につながるのではないか。
3		読書意識を高めるためには、一番身近な学校図書館の役割が大きいと思う。図書館に読みたい本がある、読みたい本が見つけやすいように工夫されているなど、図書館の環境整備を工夫されている優良事例を広く県内に普及してもらいたい。
4		大分県の高校の不読率が、全国平均に比べて良い数字となっているのは、高校の図書館が充実しているからではないか。どのような取組をすると読書量の増加につながるのか分析するとよいと思う。 中等教育段階になると読めない子どもは書けないことが多く、将来の困りに繋がるので、そのようなことをしっかり周知した方がいいのではないか。
5		学校単位でデジタル図書を導入し、子どもたちが端末で好きな時に好きな本を読める環境を整えている学校では、個人で好きな本を読むことができるし、同じ図書をクラス全員で同時に読み、感想を共有することなどができる。これからは、デジタルの本を読んだ冊数に含めることも検討してもらいたい。
6		学校教育と社会教育の場である市の図書館、公民館、放課後児童クラブなどが融合して子どもたちが本を好きになるよう環境整備を行う必要があると感じている。社会教育の方では、乳幼児のうちから保護者も参加する形でブックスタートや読み聞かせなどの活動をしているので、学校教育でも子どもたちが本が好きになる活動や本を読みたくなる活動を本気でやらないといけないと思う。
7		学校で朝のホームルームの時間などに、本を読む時間を設けるなど、本に触れる機会を設定してはどうか。
8	インターンシップ	新教育長計では異なる指標を目標に設定しているが、インターンシップは生徒・企業の双方にとって貴重な機会となっているので、引き続き取り組んでもらいたい。また、専門学科だけでなく普通科の生徒にもたくさん経験してもらいたい。
9	ICT活用	探究活動を充実する上で、ICTは有効なツールになると思う。教員自らがICT活用の範を示すことを目指すことも大切だが、範を示せなくても子どもたちがICTを活用できるよう教員の指導力を高めていけるような方策も必要ではないか。
10		ICTの普及と不登校児童生徒の増加は関連があり、夜遅くまでスマートフォンを見ていて睡眠不足になり、朝起きることができずに登校しないということもある。県でICTの利用指針を示すなど何か取組ができないか。
11		ICTなど日々技術は進歩しており、それらを活用してよりよい教育環境をつくってもらいたい。特に1人1台端末を使用して、不登校児童生徒も一緒に授業を受けられるような取組をしてもらいたい。
12	いじめ	SNSでのいじめが増加する中、高校生ぐらいになると誰かに相談することが恥ずかしいとの理由で、相談できていないケースが見られる。小学校に入学した段階から、困った時は大人に相談するよう教えていくことが必要ではないか。 また、ストレスへの対処法や、自分の命を守るための方法など自殺の予防に向けた教育を幼い時から行っていただきたい。

NO	分類	意　見
13	不登校	朝、学校に直接登校することはハードルが高い子どもでも、医療現場などで少し体を動かしてからであれば登校できる子どももいたので、外部機関等の効果的な活用について検討してはどうか。
14		スクールカウンセラーの配置時間については随分改善されているが、不登校児童生徒の増加により相談時間が足りないのが現状である。今よりも配置時間数が増えれば、スクールカウンセラーが不登校になりそうな子どもに対してもアプローチできると思う。スクールカウンセラーの配置時間を拡充できない場合でも、Zoomやアバターを使って相談できるようにするなど、少しでも相談希望の児童生徒と関わることのできる環境を整備してはどうか。 中学校までは不登校児童生徒を支援する仕組みはあるが、高校は少ないので、不登校から引きこもりにならないように、高校中退や卒業後の生徒も支援する仕組みがあればよいと思う。 新採用教諭は色々な業務に追われて、不登校児童生徒への十分な対応ができないこともあると思うので、誰かがサポートするような仕組みを検討してはどうか。
15		大分市のスロースタートプログラムなど取組として成果がでている好事例について、もっと広げていってもらいたい。
16	県民一人当たりの貸出冊数	絵本や児童書の充実が、図書館の貸出冊数の増加につながるのではないか。また、外国語の絵本なども少ないのでそこを充実させることも必要ではないか。
17	文化財・博物館	文化庁では、「博物館機能強化推進事業」「博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進事業」「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」といった補助事業がある。このような事業を活用することは、市町村の文化財保存活用地域計画の策定にも役立つと思う。このような制度があることを県の方から積極的に、市町村にお知らせしたり、申請に向けた支援をしてもらいたい。
18		文化財・博物館は、観光資源としては活用されているが、教育資源としてはまだ十分に活かしきれていないと思うので、博物館と教育分野との連携を進め、教育分野でも活用するようにしていただきたい。博物館は読書活動や体験的学習でも活用できるし、不登校児童生徒の居場所にもなるので、博物館協議会と教育委員会の連携により、博物館が考えている教育プログラム等を教育分野でも取り入れることができるのではないか。
19	特別支援教育	将来の就労に向けて特化した教育課程を作成し実践することで、成果も出ている「さくらの杜高等支援学校」のような学校がもっと増えればよいと思う。
20	グローバル教育	「英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができる」と回答した生徒が、R5調査では3割程度と少ないので、この数値が改善できるように施策を進めてもらいたい。
21	防災教育	防災教育の充実に向け、防災に関する情報サイトが各学校で上手に活用されるよう、サイトの周知も含め、取り組んでいただきたい。
22	その他	教育・行政・民間など様々な分野の方が、柔軟な発想で未来の教育・学校の在り方を自由に構想することができたら面白いと思う。
23		教育の中で企業等を活用した取組が少ないと思う。地域や民間の力を借りると解決できる課題もあると思うので、外部の力をもっと活用してもらいたい。